

飼い主様向け医薬品ガイド

エピレス®錠 を処方された飼い主さんへ 犬の“てんかん”について

東京大学・大学院 農学生命科学研究科・獣医学専攻

獣医臨床病理学研究室

監修：松木 直章 教授





てんかんって？

てんかんとは、大脳で強い電気信号が出されることでけいれんなどの発作症状（てんかん発作）を繰り返す慢性の脳の疾患です。



原因

てんかんは、脳の異常（病気や事故）によっててんかん発作を起こす、「症候性てんかん」と、脳に異常はみつからないがてんかん発作を繰り返す「特発性てんかん」があります。特発性てんかんは主に遺伝的要因によって発生すると考えられています。

症状

さまざまな発作症状がありますが、多く認められるものとして、全身の筋肉がつっぱる強直発作、全身の筋肉がガタガタけいれんする間代発作、強直発作から間代発作に移行する強直間代発作などがあり、数秒から数分間みられます。



傾向

犬の特発性てんかんは、1~2%の割合で認められ、一般的に1~5歳で発症することが多いです。

好発犬種としては、ビーグル、トイ・プードル、ミニチュア・ダックスフンド、イタリアン・グレーハウンド、ボストン・テリア、ポメラニアンがあげられます。



治療

発作が繰り返されると、脳がダメージを受けて、後遺症や死につながる危険性があるので、抗てんかん薬によって発作を予防することが必要です。



エピレス[®]錠とは

この薬は犬の抗てんかん薬です。

この薬は、脳の過剰な興奮をしのぎ、
てんかん発作が起こるのを防ぎます。

犬の特発性てんかんに伴う発作の低減を目的に
次のような状態の犬に処方されます

- ▶ 特発性てんかんのため、過去3ヵ月に2回以上の発作がみられた犬
- ▶ 特発性てんかんのため、群発発作(1日に2回以上の発作)がみられた犬
- ▶ 特発性てんかんのため、発作重積(5分以上続く発作)がみられた犬





服用にあたっての注意

- ⚠ 必ず1日2回、食事と一緒に服用させてください。
使用量は、犬の体重や発作の様子に応じて、獣医師が決めます。
- ⚠ 獣医師の指示に従ってください。
- ⚠ 飲ませ忘れたときは、気がついたときにできるだけ早く1回分を飲ませてください。
ただし、飲ませるべき時間から6時間以上経過していたら、その1回分を抜いて、
次から規則正しく飲ませてください。

使用中の注意

規則正しい服用

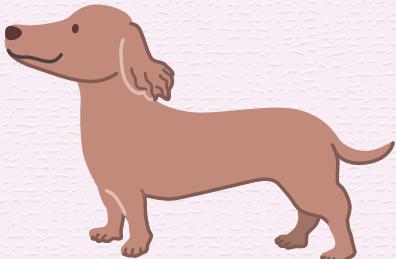
- ◆自己判断で使用を中止したり量を加減したりすると、急に重いてんかん発作が現れことがあります。獣医師の指示どおりに毎日規則正しく飲ませることが大切です。
- ◆副作用が現れたため、あるいは他の抗てんかん薬に変更するためにこの薬を中止するときは獣医師の指示に従い、薬の量を徐々に減らしながら中止してください。

獣医師への定期的な受診

- ◆飲ませはじめてから2週間以内、または獣医師が投与量の変更を指示してから2週間以内に、薬の効果や副作用を調べるために身体検査や血液検査が必要です。必ず受診してください。
- ◆効果が安定してんかん発作が十分に低減された後も、4～6週間ごとに受診してください。

発作が起きたとき

- ◆正しく飲ませていても、てんかん発作がおこる可能性があります。
- ◆発作中は、犬が周囲の物にぶつかったりしないよう、安全を確保してください。
- ◆発作中は、犬の口の中に手を入れたり、物を咬ませたりしないでください。
- ◆獣医師から発作時に座薬を使う指示が出されている場合は、その指示に従って座薬を使用してください。
- ◆発作が5分以上間断なく続いているときは、すぐに動物病院に連絡して受診してください。



副作用

◆ この薬を飲ませることで、以下に示された副作用が現れたときは、すぐに動物病院に相談するか受診してください。以下に示されてはいないが、犬が普段とは違う様子になったときも、すぐに動物病院に相談するか受診してください。

現れる可能性のある副作用	犬の様子
嘔吐	食べたものや胃液を吐き戻す
流涎（りゅうぜん）	普段以上によだれが多い
軟便	便が柔らかい
食欲低下	食欲が減る・食欲がない
興奮	服薬後、普段以上に興奮する
震え	手足や頭部の震え
跛行（はこう）	歩き方がおかしい
運動失調	体がふらついたり傾いたりしている



飼い主様への注意

すべての飼い主様への注意

- ◆ 予供の手の届かないところに保管してください。
- ◆ 直射日光と湿気を避けて室温で保管してください。
- ◆ 錠剤は犬に与える直前までPTP包装シートから出さないでください。
- ◆ 錠剤を犬に与えた後、犬が確実に摂取したことを確認してください。
- ◆ この薬を他の容器(ピルケースなど)に入れ替えないでください。
- ◆ 錠剤を碎いて粉末にすることはしないでください。
- ◆ この薬を扱った後、あるいはこの薬が皮膚に触れたときには、すぐに水洗いしてください。
- ◆ 人間がこの薬を誤って飲み込んだ場合は、すぐに医師の診察をうけてください。
- ◆ 他の動物がこの薬を誤って飲み込んだ場合は、すぐに獣医師を受診してください。
- ◆ この薬を他の人に渡してはいけません。
- ◆ この薬が余った場合は獣医師に処分してもらってください。

妊娠中の女性、妊娠している可能性のある女性、授乳中の女性への注意

- ◆ 妊娠中の女性、妊娠している可能性のある女性は、この薬を取り扱わないでください。他にこの薬を扱える方がいない場合は、手袋を使うなどして、この薬を素手で扱わないように注意してください(人間や動物で、胎児への危険性が指摘されています)。
- ◆ 授乳中の女性は、この薬を取り扱わないでください。他にこの薬を扱える方がいない場合は、手袋を使うなどして、この薬を素手で扱わないように注意してください(この薬は母乳に移行することが指摘されています)。
- ◆ 妊娠中の女性、妊娠している可能性のある女性、授乳中の女性は、この薬を服用中の犬の尿に触れないでください。他に尿を始末する方がいない場合は、手袋を使うなどして、尿に直接触れないように注意してください(この薬は、服用中の犬の尿に排泄されます)。

抗うつ剤やパーキンソン病治療薬を服用中の飼い主様への注意

- ◆ 抗うつ剤やパーキンソン病治療薬を服用中の飼い主様は、この薬を取り扱わないでください。他にこの薬を扱える方がいない場合は、手袋を使うなどして、この薬を素手で扱わないように注意してください。

この薬を使う前に、確認することは？♪♪♪♪

次に該当する犬は、この薬を使用することはできません。
使い始める前に獣医師に告げてください。

- ◆ 5ヵ月齢未満の犬
- ◆ 妊娠中の犬、授乳中の犬、または繁殖を予定している雌犬
- ◆ 貧血と診断されている犬
- ◆ 過去にゾニサミドに対して過敏症を起こした犬

次に該当する犬は、この薬を慎重に投与する必要があります。
使い始める前に獣医師に告げてください。

- ◆ 腎臓病または肝臓病と診断されている犬
- ◆ 過去に薬物(とくにサルファ剤、経口血糖降下剤、炭酸脱水素酵素阻害剤)に対して過敏症を起こした犬
- ◆ 過去にフィラリア予防薬で副作用を経験した犬(とくにコリー系の犬)
- ◆ 他の抗てんかん薬(フェノバルビタール、臭化カリウムなど)を処方されている犬
- ◆ ノミ・マダニ駆除剤(アミトラズ、スピノサド)を処方されている犬
- ◆ 抗生物質(クロラムフェニコール)や抗真菌薬(ケトコナゾール)を処方されている犬
- ◆ インターフェロン製剤、ニューキノロン系抗菌薬を処方されている犬



飼い主様へのお願い

エピレス[®]錠の成分(ゾニサミド)はヒトで催奇形性を誘発する薬剤で、本成分は服用中の犬の尿に排泄されます。このことから、エピレス[®]錠の成分が人や他の動物に影響しないよう、以下の注意を守ってください。なお、排尿後のペット用トイレシート、犬用パンツ、犬用紙おむつ、雄犬のマーキング防止用製品、尿を雑巾やティッシュペーパーなどで拭き取る際は、素手で取り扱わず、手袋等(できれば使い捨て製品)を使用し、ビニール袋等に入れ、各自治体の指示に従って廃棄してください。

しつけ

- 室内で排尿を済ませてから、散歩に出られるようにしつけてください。
- 犬用パンツ、犬用紙おむつ、マーキング防止専用製品の装着をいやがらないようにしつけてください。

屋内

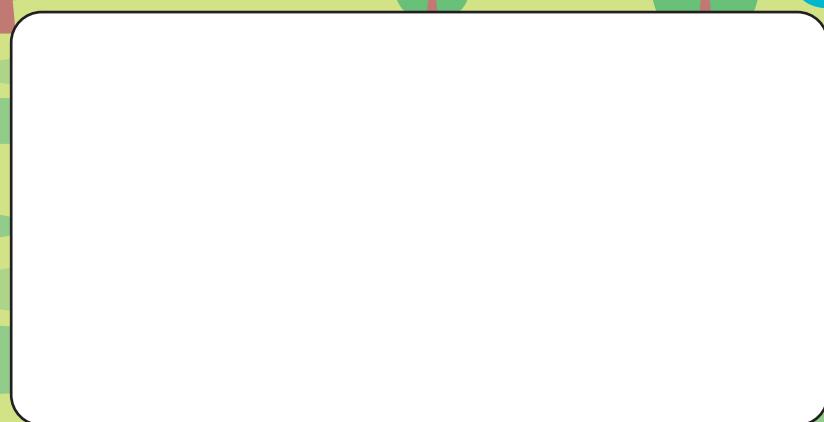
- 排尿時はペット用トイレシートを用いてください。

屋外

- 排尿時は地面にペット用トイレシートを敷き、その上で排尿させ、尿をペット用トイレシートに染み込ませて回収してください。
- ペット用トイレシートに排尿が困難な犬や、公園やドッグラン(屋内を含む)などの人や他の動物が多く集まる公共の場では、犬用パンツ、犬用紙おむつ、マーキング防止用製品を装着するなどして、尿を回収するよう注意してください。
- 散歩中は電柱、花壇、芝生、砂場、家の付近など、人や他の動物が頻繁に往来する場所では排尿させないでください。
- 路上、公園、ドッグランなどの土壤、芝生、砂場には、犬の尿を染み込ませないようにしてください。
- 雄犬のマーキング等の少量の尿を含めて尿を全て回収できなかったときは、雑巾やティッシュペーパーなどで拭き取り、その後、尿を大量の水で洗い流して下さい。



memo



制作

 **共立製薬株式会社**
東京都千代田区九段南1-5-10
<http://www.kyoritsuseiyaku.co.jp>